

福 井 県 医 師 会

だまり

第553号 平成19年(2007)7月



松田県医会長(右)、岩堀武生医師会長(左)

## 舞鶴共済病院と病理診断

福井大学学長 福 田 優



私が第一病理学講座の教授をしていた頃は福井県下で病理診断にあたった病理医は6人程で全国で最も少ない県でありました。その病理医が少ない福井から、なぜ京都府の舞鶴共済病院まで病理診断に出かけていくのかとよく聞かれました。同病院はもともと金沢大学の関連病院で、病理は中西教授の教室が担当されていました。しかし、金沢ではあまりにも遠すぎるので、当時から懇意にお付き合いをしていた私どもの方に依頼された事から、現在まで13年以上の病理診断が続いています。当時は私を含め3人で交替していましたが、現在は私と臨床病理の今村好章教授の2人で何とか責務を果たしています。特に、私が副学長そして学長になってからは、私は月2回の日曜日しか行けなくなり、今村先生には多大な負担をかけ申し訳なく思っています。

さて、舞鶴は確かに遠くJRのダイヤが改訂される度に悪化し、今では片道ほぼ3時間半を要します。しかし、舞鶴共済病院の病理はまず技師さんのレベルが極めて高く、標本が抜群に美しいことはもとより、知識・経験とも豊富で、良き相談相手として安心して診断出来るのが何よりも嬉しい事です。さらに、地域の基幹病院だけあって、多くの素晴らしい症例に出会う機会が多く、良い勉強になることが有難いです。大学の病院病理部とはテレパソロジーでも連結されており、緊急を要する手術中の病理診断は専ら今村先生が行っています。実際にテレパソロジーをやること分かるのですが、正しい診断を得る為には、情報を送る側の技師さんの技量に負うことが大きく、問題の部位を如何に的確に病理医に提示できるかにかかっています。舞鶴共済病

院の病理と福井大学医学部病院病理部とのテレパソロジーによる診断数は、おそらく全国トップレベルにあると思われます。

さて、私には片道3時間半もかけて出かけていく楽しみがあります。それは、季節の移り変わりが実に敏感に感じ取れる事です。小浜線は海岸と山あいを縫うように走るローカル線ですが、春夏秋冬、実に多彩な変化を見せてくれます。心地よい振動に身を任せながら大学運営の事、論文指導の事、研究の事等を考えるのは実に楽しいひと時です。梅のシーズンには電車のドアが開く度に、仄かな梅の薫りがします。「神仏多くおわせる若狭路を梅が香淡く小浜線縫う」また山桜が美しい頃には特に心が和み、「残雪とまごうが如き白さにて、緑にじむ山桜かな」とこんな風に下手な和歌をひねっていると、時の経つのを忘れる程です。また時には、桜と梅の違いを考えて居ります。勿論、開花の時期は梅の方が遙かに早く、寒い時期に梅の下で酒盛りする気にはなれません。しかし、桜の下では酒を楽しむ梅の下ではその気になれないのはそれだけの理由ではないようです。まず梅花は、花の数も少なく、枝はツンと上を向いています。丁度気位の高い貴婦人のような印象で、少し近寄りにくい感じがあります。それに対して、桜は枝も下を向き、そこにはこぼれんばかりにたくさんの花がついています。まるで大きく私たちを包み込むような印象を受けます。こんな梅と桜の違いを考えるのも楽しい事です。

これからも病氣と闘っている人々のために、正しい病理診断に努めてゆこうと決心して居ります。

## 写 真



### 写真説明：どくだみ

どくだみは漢方薬でなく民間薬である。漢方では十薬とも呼ばれ、その茎葉が薬用に用いられる。どくだみの生のものは一種の臭気があるが、乾燥するとあの臭気なくなる。民間では生の葉をすりつぶして、たむし、しらぐも、はたけなどにつける。この汁には白癬菌に対して抗菌作用がある。また生の葉を火であぶってから柔らかくなるまでもみ、これをねぶとなどの腫れものの吸い出しに用いる。ところで乾燥した葉には抗菌作用がない。乾燥した葉には血管を丈夫にして出血を予防する薬効があり、高血圧症や動脈硬化症の患者に他の漢方薬数種のものに混合して用いられる。

大野市飯降山の麓で撮影した。

福井市 河合 光輝